

美術家の視点 カニイケタクヤ



写真 中尾栄治

夢の中だけで旅しているんじゃないかって。そこから「夢の国」、未来に廃墟となったテーマパークが思い浮かび、プラスチックやビニールなど土に還らないゴミばかりが残る世界を作りました。



『寿歌』2018年舞台芸術公園にて(写真:猪熊康夫)

「朽ちないゴミ」で作る終末世界——

「舞台美術家になったきっかけは？」子ども頃から絵を描くのは好きだったんです。でも色を塗るのが嫌いで、なるべく色を塗らずにどう済ませるか考えながら描いていました。あと工作が嫌いでした(笑)。大道具会社のアルバイトを始めた時も「こんなに不器用な奴は初めてだ」って。でもやっているうちに、この仕事は毎日違うことができて面白いな。ただ「カキワリ」が嫌だった。「レンガ」を絵で描いたり壁紙を貼ったりするくらいなら、本物のレンガが積もるよ、と思ってしまっ。上の人に話したら「それをしたかったら自分の仕事でしろ」と。それで自分で美術を作り始めました。カキワリ(書写)風景や建造物などが描かれた舞台背景。大道具の一つ。今回の舞台美術は、大量のプラスチックゴミが印象的です。

戯曲を読んで、ゲサクとキョウコは旅をしているけど、この人たちが本当に進んでいるのか、な、と思ったんですね。実は同じところをぐるぐる回っていて、

僕は古くて丁寧な扱われてきたものや朽ちかけたものに美しさを感じ、普段、錆びた物や廃材などをよく使います。「寿歌」では逆に「見えないゴミ」を「朽ちないゴミ」を使った。今回も美術プランは同じですが、ゴミの内容を変えるとか何かを混ぜることで、少し景色が変わる気がするんです。僕が好ましいと思うのは、想像する余地があるものなので、かみいけたくや

香川県在住。「遭遇、経過、喪失」をキーワードに移動(時間)や景色、言葉などから構築。主に美術(インスタレーション、平面作品等)と舞台美術(演劇、ダンス、サカサ等)を制作。映画「カッコーの巣の上で」のゴッホの美術、パフェが好き。



「朽ちないゴミ」で作る終末世界——



こぼり じゅん 1953年名古屋市生まれ。編集者、ライター。「プレイガイドジャーナル」編集長を経て、88年からフリーランス。中島らむの作品集の編集のほか、北村想の戯曲本など演劇書の編集も数多く手がけ、その名を広く知らせた。

編集後記 まさかの三年目に突入した。新刊(11) 編集部一同、文殊様の知恵には遠く及びませんが、毎号知恵を寄せ合って作り続けた「装束」が、お客様に「次号が楽しみ」と言ってくれた。機会が増えました。今シーズンも初心を忘れず多彩な切り口で作品に迫りたいと思います。お楽しみに。(制作部 内田裕子) すぐく新聞第9号 一面情報欄デザイン 阿部太(TEACH ABE) 以下制作部 組版 布施知範 編集(演出担当) 雪岡純、入江恭平 (本報班) 坂本彩子、内田裕子、計見葵、西村藍 (手書き) 藤永健二、編集部

ヤスオが行く! ノリヤカー行商 長谷川海苔店 鈴木浩司さん



静岡市清水区にリヤカーで海苔を売る人物がいると聞きつけ、春日井一平(ヤスオ役)とともに訪ねた。鈴木さんは勤めていた海苔屋を二年前に辞め、代々続く家業の海苔の卸業を継いだ。しかし海苔の消費量が減る中、考えた末に思いついたのが、リヤカーでの対面販売だった。最初のうちは怪しまれたりもしたというが、「歩いてるからその出会い、それが嬉しいし、生きている喜びを感じる。どんなお客さんがいるか毎日ドキドキする」。一期一会の出会い、日々異なる観客を前に舞台に立つ春日井

も鈴木さんの言葉に共感していた。途中で雨に降られたりしながらも日々一〇km歩く。ズシリと重いリヤカーを引きながらそれだけの距離を歩くのは並大抵のことではない。それでも鈴木さんは、爽やかな笑顔で楽しい話。今後について「距離も範囲も、そしていつまでやれるのかも、自分の可能性を試してみたい」と語り、表情は生き生きと輝いていた。

(取材制作部 入江恭平 写真制作部 坂本彩子)



キョウコとワタシ

終末世界で生き抜くための必須アイテムは？

～ 荒野だっと思いきやSHIZUOKA 芸人たちのオススメ3選～

(アイテムはいろいろ?)

パントマイム!!

「想像したい。スッパ梅干しを想像して垂涙がでるみたい!!」

どんな場所でも、楽しかったこと思い出を思い出し想像に重ねてみる!

丈夫な **カバン**

毎日、落ちているものを色々と拾って、遊びに没頭し、心を発展させる! 核爆弾がきつて軟体球がカバンに入っている。

ランボーが持つ **サバラン**

狩猟時工作にも護身にも使えるので、ガチで生き残るためには総合得点が一番高い! 思える。スローンの映画を参照あれ。

お茶を片手に台本を手に読んでみる SPACの人気アウトリチ企画

奥野良士のナビゲート。作品世界を味わってみませんか?

8月22日(木)18:30~10岩邊邸(清水区)

8月29日(木)18:30~御前崎市立図書館

*お申し込みは SPACチケットセンターへ

イラスト 創作技術部 駒井友美子